東海環状自動車道 発掘調査だより

No.2
2010.12

三重県埋蔵文化財センター
〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川 503
TEL:0596-52-1732 / FAX:0596-52-7035
http://www.pref.mie.jp/MAIBUN/HP/

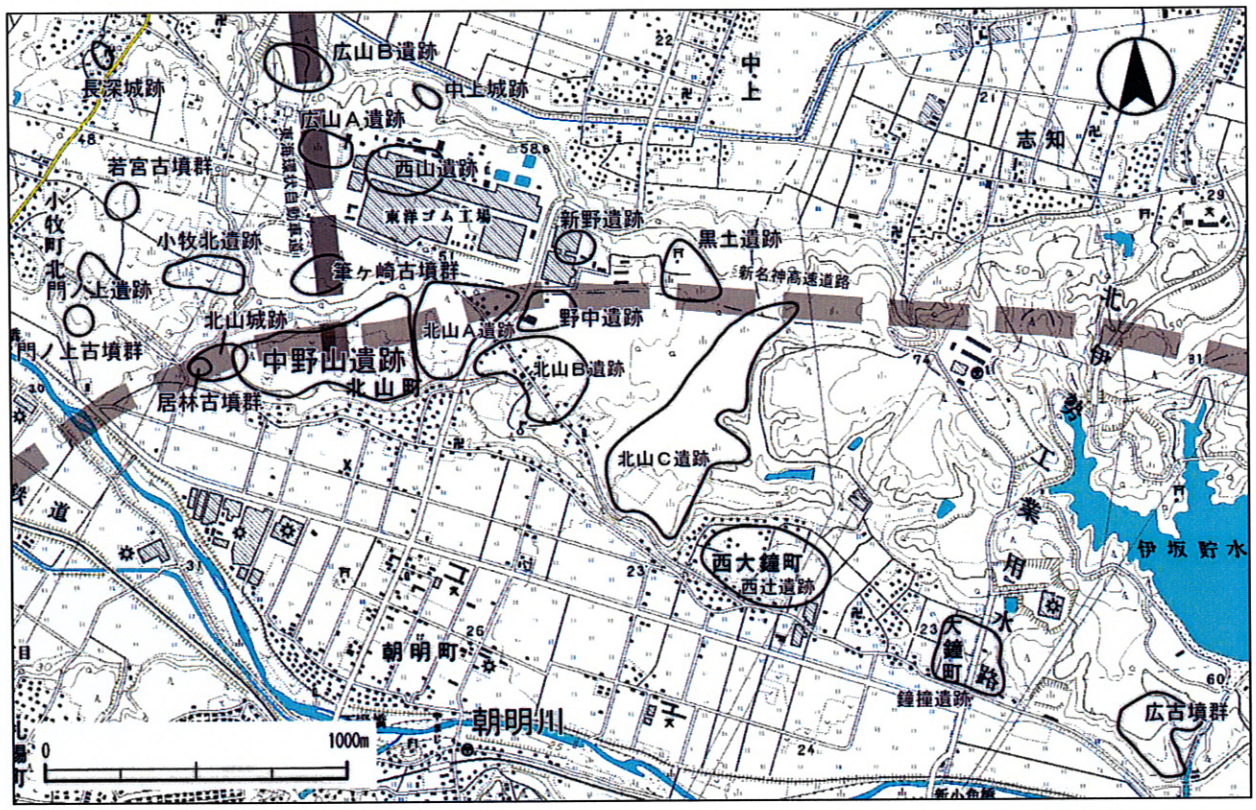
四日市整理所
〒512-8064 三重県四日市市伊坂町 126-1
TEL:059-363-3196 / FAX:059-363-3196

中野山遺跡 第2次 発掘調査 現地説明会

中野山遺跡は四日市市北山町の丘陵上にある遺跡です。今回はじめて発掘調査がおこなわれ、弥生時代中期から飛鳥時代（約 2,000 年前～約 1,400 年前）までの土器と、竪穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかりました。発掘調査は東海環状自動車道の建設に伴うもので、今回はジャンクション建設予定地の一部分（約 1,700 ㎡）を調査しました。調査は平成 22 年 8 月 30 日から始まり、翌年 1 月まで行う予定です。

掘立柱建物 4（北から撮影）

【周囲の環境】中野山遺跡のある朝明川北岸には、他にもたくさんの遺跡があります。近くに「大鐘（おおがね）」という地名があることから、このあたり一帯が、古代朝明郡の「大金郷（おおがねごう）」ではないかと考えられています。「大金」という地名は金属との関わりを連想させますが、それを裏付けるかのように、中野山遺跡の北にある西山遺跡では、昭和40年代に行われた発掘調査の際に、飛鳥時代から奈良時代の集落跡とともに、鍛冶（かじ）を行う際に出る鉄滓（てつさい）（鉄のかすのようなもの）が大量に見つかっています。



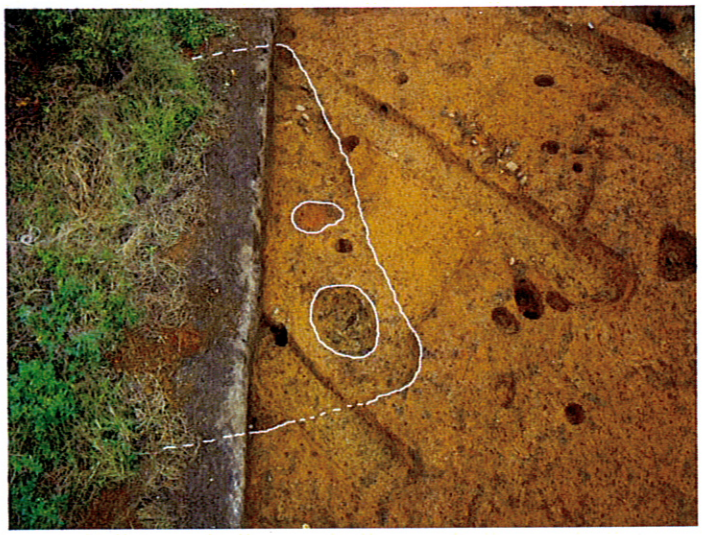
中野山遺跡周辺の遺跡（1:25,000）

【おもな遺構（ひとの生活のあと）】

今回の調査では、弥生時代中期（約2,000年前）から奈良時代頃（約1,300年前）と考えられる遺構が見つかっています。しかし、今のところ明確に弥生時代といえる遺構は**小穴1**（遺構位置図参照）だけで、主になるのは、飛鳥時代から奈良時代頃の建物跡です。先行調査で、これらの建物跡は丘陵のかなりの部分に広がっていることが分かっており、ここに大きな集落が存在していたことが分かりました。

竪穴住居1　道路西側の調査区で見つかりました。建物の西半分は調査区の外にあります。竪穴住居というのは、地面を掘り込んでつくられた建物です（参考図1）。

写真の土が赤いところはカマドの跡です。手前の穴は貯蔵穴といわれるもので、カマドを壊した時の灰と一緒に土器の破片が捨てられていました。この土器の特徴から飛鳥時代頃の建物ということが分かりました。



竪穴住居1（南から撮影）※すでに埋め戻しました。

竪穴住居３　今回の調査区では一番大きな竪穴住居です。東西約５ｍ、南北約６ｍで、広さは約 30 ㎡（18 畳程度）あります。

写真で人が入っている穴は、主柱穴といわれる、建物の屋根を支えていた柱の跡です。カマドの跡や貯蔵穴は確認できませんでしたが、建物が壊された後に捨てられたとみられる土器の破片がたくさん見つかりました。土器の特徴から飛鳥時代頃の建物とみられます。

掘立柱建物３　調査区の中央部南側で見つかりました。掘立柱建物というのは、地面に穴を掘って柱を立ててつくられた建物です（参考図２）。壁の長い方は約７ｍ、短い方は約５ｍあります。柱穴から土器などは見つかりませんでしたが、周辺から見つかっている土器や柱穴の形などから、飛鳥時代～奈良時代頃の建物とみられます。

掘立柱建物４（表紙の写真）　調査区の東側で見つかりました。南北約 5.5m、東西約 4.5mあります。調査区の中央部で見つかった掘立柱建物２とほぼ同じ大きさです。

建物の内側にも柱穴があることなどから、重い物を支えられるようにつくられた倉庫の可能性も考えられます。

竪穴住居３（東から撮影）

掘立柱建物３（北東から撮影）

【参考】

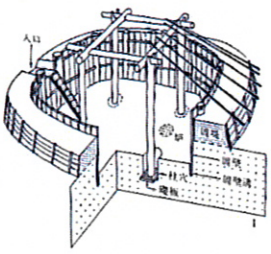


図１　竪穴住居の例

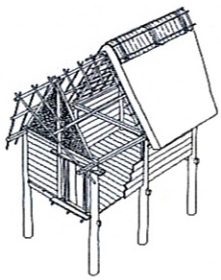


図２　掘立柱建物の例

（都出比呂志「竪穴住居の東と西」『日本農耕社会の成立過程』、宮本長二郎「梁間一間型高床建築の復原と民俗例」『先史日本の住居とその周辺』より）

【今回の調査で分かったこと】

中野山遺跡では、弥生時代から人々のくらしが始まったことが分かりました。その後、飛鳥時代から奈良時代頃には、竪穴住居や掘立柱建物が丘陵の大部分に広がっていたようです。飛鳥時代の大規模な集落が発掘調査で見つかることは、北勢地域では珍しいことです。また、倉庫とみられる建物も多く見つかっていることから、有力者が住んでいたり、なんらかの公的な施設があった可能性も考えられます。そういった中野山遺跡のなぞは、今後の調査によって、解き明かされていくものと思われます。

【おもな遺物】（他にも実物を展示しています）

今回の調査では弥生時代中期（約 2,000 年前）～飛鳥時代（約 1,400 年前）の土器が見つかっています。

弥生土器ふた（弥生時代中期）

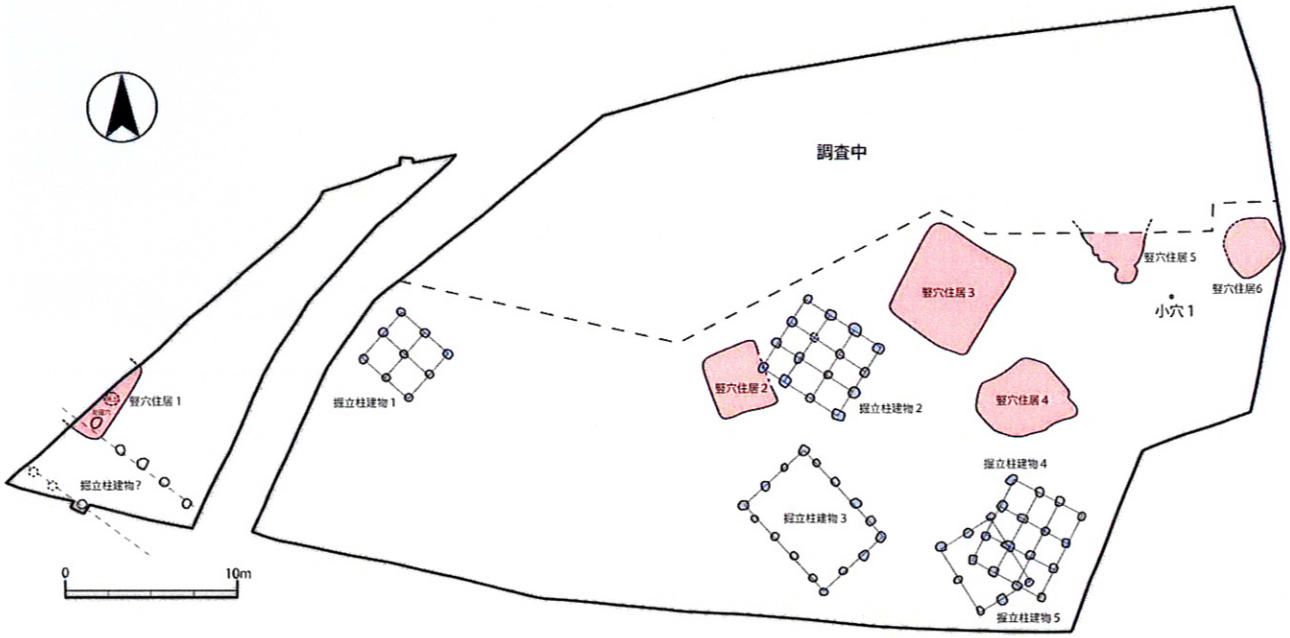
小さい穴が４つあけられており、ひもを通して壺などの口をとじたものと思われます。

土師器甕（飛鳥時代）

竪穴住居１の貯蔵穴から出土しました。土師器といわれる素焼きの土器で、甕の口の部分です。

須恵器の破片（飛鳥時代）

竪穴住居３から出土しました。須恵器といわれる、窯で焼いた硬い土器です。



遺構位置図（1:400）

調査委託　国土交通省　中部地方整備局　北勢国道事務所
調査主体　三重県教育委員会
調査担当　三重県埋蔵文化財センター
発掘作業　（株）島田組